

2018年12月31日掲載

子どものむし歯
定期的にメンテナンス

本県は6歳児のむし歯の罹患（りかん）率が全国最下位になってしまいました。県では対策として幼稚園や保育園でのフッ化物洗口を始めており、一部地域では広がりを見せています。フッ化物洗口はむし歯の予防には非常に有効であり、小学校卒業まで定期的に行うことで、高い予防効果が期待できます。

1歳6カ月児健診や3歳児健診で歯科健診を行います。乳幼児は唾液も多いですし、嫌がって口を開けないお子さんも多いため、環境の整った歯科医院できちんと診てもらうことも大切です。乳歯は永久歯に比べ神経が太く入っているため、たとえ小さな穴があいているだけでも、すぐに神経まで到達してしまふことがありますので、きちんと診査してもらうのが良いでしょう。

また、フッ化物洗口を行っていても、仕上げ磨きは年齢や個々の能力に応じて行う必要があります。歯磨きが上手にできない子どもには、ある程度の年齢（小学校くらい）までは仕上げ磨きや保護者の確認が必要です。

フッ化物洗口で歯の質を強くし、あわせて仕上げ磨きや歯科医院での定期的なメンテナンス（フッ化物塗布など）を行うことによって、むし歯になりにくい強い歯が形成されます。そうすることで、大人になってからもむし歯になりにくい歯を育むことができます。

フッ化物洗口が正しく理解され、さらに広まっていくことで、「むし歯罹患率最下位」を返上できる日もそう遠くないでしょう。